

令和3年度 夢の樹みどり 事業報告書

1 総括

東京都の感染者数が大幅に増えていた令和3年8月に利用者、職員含め計19名が新型コロナウイルス感染症に感染し、保健所の指示により9日間事業停止となった。また、令和4年3月にも利用者3名、職員2名の計5名が感染し、事業所の判断で3日間事業を停止した。このように令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年となった。

一方、それ以外の重点目標として、令和2年度から継続してチーム支援と活動内容の充実に取り組んできたが、個別支援計画に沿って組織的に支援を行う姿勢は全般的に不十分となってしまった。次年度も感染症対策を徹底しながら、チーム支援と活動内容の充実に取り組んでいくが、特に3年度の反省を活かし、個別支援計画の充実と計画に基づいた利用者支援の実施に力を入れていきたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 夢の樹みどり
- 2) 事業種別 生活介護
- 3) 所在地 東京都小平市小川町1-744-1
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 45名（令和4年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成29年4月1日
- 9) 職員（令和4年3月31日現在）

管理者	1名	
サービス管理責任者	1名	（管理者兼務：常勤換算1.0）
生活支援員	21名	（常勤換算19.6）
看護師	5名	（常勤換算3.2）
嘱託医	1名	

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
 - (1) 資源回収

- (2) 公園清掃
- (3) 使用済み小型家電回収
- (4) ポスティング
- (5) 書類封筒作成
- (6) 紙袋底板入れ
- (7) 缶・ペットボトル潰し
- (8) その他軽作業

2) 生活支援事業

- (1) レクリエーション (月 2 回実施)
- (2) 音楽教室
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間を通して中止。
- (3) 旅行 (年 1 回実施)
- (4) 運動プログラム (週 3 日～5 日実施)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プールは年間を通して中止。
- (5) ストレッチ (週 4 日～5 日実施)
- (6) 夕方生活支援事業 (週 3 日実施)
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、お風呂、プール、カラオケ、マンガ喫茶は年間を通して中止。

3) 行事

- 4 月 永年勤続表彰式
- 5 月 弁当作り
- 6 月 音楽会
- 7 月 川遊び
- 8 月 中止 (新型コロナウイルス感染拡大の影響による)
- 9 月 ボッチャ大会
- 10 月 旅行 (埼玉県・群馬県方面)
- 11 月 Tシャツ染め
- 12 月 クリスマス会
- 1 月 成人を祝う会
- 2 月 キックカーリング大会
- 3 月 お花見 (於：活動室)

6 日 課

開所・送迎	8 : 3 0 ~ 9 : 5 0
朝礼	9 : 5 0 ~ 1 0 : 0 0
活動	1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0
(作業・運動 P G)	
昼休み	1 2 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0
昼礼	1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 1 0
活動	1 4 : 1 0 ~ 1 5 : 3 0
(作業・運動 P G)	
実績記入・お茶	1 5 : 3 0 ~ 1 5 : 5 0
終礼	1 5 : 5 0 ~ 1 6 : 0 0
送迎・清掃	1 6 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
G P ミーティング	1 7 : 0 0 ~ 1 7 : 1 5
全体ミーティング	1 7 : 1 5 ~ 1 7 : 3 0

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 目的意識の共有及びコミュニケーションの強化によるチーム支援の実施

① 職員間の協同連携体制の強化

活動や利用者の状況等について施設長、職員同士の情報共有や意見交換を密に行うほか、職員一人ひとりが広い視野を持って協力できる体制を作る。

【成果と課題】

施設長、主任、グループリーダー間のコミュニケーションはよく取れており、活動や利用者の状況等に関する意見交換を密に行った。また、リーダー層と職員、職員同士のコミュニケーションも昨年度に比べると積極的に行われるようになった。ただし、多くの職員が自分の担当業務以外への関心が薄く、相互に業務を補完し合う姿勢が不十分で、利用者を待たせてしまうなど、活動をスムーズに進められない場面があった。

② 事業及び支援計画の目的意識の共有

月に1度の職員会議で事業計画の進捗状況を全職員で確認するほか、日々のミーティング等を通して、支援計画と経過の共有、検証、必要に応じて計画の見直しを行い、目的意識の共有を徹底する。

【成果と課題】

月に1度の職員会議で事業計画の進捗状況を全職員で確認した。利用者の安全確保や身体に機能麻痺がある利用者の負担軽減や機能維持へ向けた取り組みなど、計画の一部については目的意識を持って取り組めたが、個別支援計画に基づいた利用者支援は不十分であった。特に計画の目標設定において、長期、短期、支援上の重点の区別が整理されておらず、これにより計画の共有もされにくくなり、これに沿った支援や評価を行う姿勢は全般的に不足していた。

(2) 活動内容と支援の充実

1 Fー

① 車いす利用者等の身体に機能麻痺がある利用者の負担軽減と機能の維持、向上。

長時間の座位を避けるため、毎日1時間程度マットなどで体を伸ばしての静養やストレッチを行う。

【成果と課題】

車いす利用者3名の内、2名にストレッチ及び歩行訓練を行った（残りの1名は他で理学療法を行っているため、当事業所では実施していない）。ストレッチの場面では、自ら体を動かそうとするなど、積極的な姿勢で参加する場面が昨年度と比べ大幅に増えたほか、僅かではあるが、手足の可動域も広がりつつある。歩行訓練においても、自分の歩きたい方へ行こうとするなど、能動的な姿勢がみられた。

② 車いす利用者等の身体に機能麻痺がある利用者の安全対策の徹底。

車いすの移乗時は職員2名での介助を徹底するとともに、見守りにより転倒等を防止する。

【成果と課題】

車いす移乗時の安全確保を徹底し、年間を通して大きな怪我につながるような事故は発生しなかった。ただし、車いす乗車時に自らの力でずり落ちようとする場面や、下肢の装具を着用して歩行している際にバランスを崩して転倒しそうになるヒヤリハットは数件発生していること

から、原因の究明と対策の実施、その検証を繰り返し行い、今後も安全確保を徹底する必要がある。

2 Fー

- ① 一人ひとりにあった環境設定や、分かりやすい予定の伝達により見通しを持ちやすくすることで、利用者の情緒面の安定を図ると共に、見守りや職員配置の工夫を行い、他害、離接等の事故防止を徹底する。
- ② 他害の可能性ある利用者に対して、不安感の解消など気持ちの安定化を図るとともに、他のコミュニケーション手段の獲得に向けた支援を行う。また、見守りや距離の確保等により未然防止を徹底する。

【成果と課題】

朝礼などの場面で作業の道具や絵を示し見通しをもちやすくしたほか、視覚情報が多くて不安定になる利用者に対してはパーテーションを活用するなど気持ちの安定に向けた取り組みを継続して行った。経験による予定の把握や環境への慣れもあり、多くの利用者の情緒面が安定化傾向にある。完全に他害等の問題行動がなくなったわけではないが、職員の見守りスキルも向上し、事前防止により大きな事故には至っていない。また、他害のリスクがあることによって周囲と距離をとっていた利用者を集団の輪の中に入れていくことに取り組み、徐々に集団の中で過ごす時間が増えている。

1 F・2 F 共通一

- ① 健康管理の充実
ア、通所前の検温やマスク着用の声かけ、建物内消毒等の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行う。
イ、月々の体重データや健康診断結果に基づき、必要に応じて運動プログラムとともに、家庭と連携して食事量の調整等を行う。
ウ、基礎疾患のある利用者1名の毎日のバイタルチェックを実施するほか、体調不良の利用者に対してもバイタルチェックを行い、健康状態の把握に努める。

【成果と課題】

- ア、基本的な感染対策（手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用）を実施していたものの、8月初旬に利用者2名が新型コロナウイルスに感染したのを機に、事業所内で感染が広がり、利用者12名、職員7名の計19名が感染した。保健所の指示に従って8月10日から8月20日までの9日間事業を停止し、8月23日から事業を再開したが、9月中旬には休業前と変わらない日常を取り戻した。また、令和4年3月下旬にも利用者3名、職員2名の計5名が感染し、3日間事業を停止した。8月に新型コロナウイルス、12月にインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。
- イ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間を通してプールは実施できなかったが、利用者12名が週3日～5日のウォーキングを定期的に行ったほか、内2名は家族の要望により低カロリーの弁当に切り替える取り組みを行った。この利用者12名のうち3名に体重の減少（3キロ減少1名、6キロ減少1名、20キロ減少1名）がみられ、残り9名は増加を防止することができた。
- ウ、令和元年8月に脳梗塞を発症した利用者1名に対して、毎日通所時にバイタルチェック（血圧、体温、血中酸素濃度）を行ったが、年間を通して異常な数値は確認されなかった。その他、体調不良の利用者にも必要に応じてバイタルチェックを実施した。

② 新規の活動の開発

これまでの活動の継続、充実を図るとともに、利用者の嗜好、特性等に応じた活動の開発を行う。

【成果と課題】

作業活動では、令和3年4月より紙パック・白色トレイ回収作業を新たに開始した。これより先に始めた使用済み小型家電回収作業と概ね同様の工程ということもあり、利用者の作業理解が早く、多くの利用者が意欲的に参加した。作業以外の活動では、前年度に引き続き、毎月2回利用者の楽しみとなる活動を行ったが、新型コロナウイルス感染防止のため、絵画、塗り絵、DVD鑑賞、カードゲームなど屋内での活動が中心となった。この活動で新たなメニューの開発はできなかったが、毎回多くの利用者が参加し楽しんでいる様子がみられた。

③ 作業活動の充実

作業に携わることで社会参加を行うとともに、仲間と協力するなどの経験から社会人としての成長を図る。

【成果と課題】

全ての利用者が作業に参加する方針で活動を行った。朝礼時など自主的に着席する利用者が増え、全体的に休憩時間とのメリハリがつけられるようになってきている。作業の際にも、多くの利用者に継続力や集中力の向上がみられた。利用者同士で声やジェスチャーを通じてコミュニケーションを取り、協同で作業を行う場面も増えつつある。

2) 人材育成

- (1) 管理職候補者及び中核職員の育成
- (2) 新人職員の育成及び業務標準化
- (3) 出納職員及び出納職員候補者の育成
- (4) 利用者の心情理解やリスク管理など、利用者支援の基本的スキル向上
- (5) 職員間のコミュニケーション能力強化
- (6) ケース記録やミーティング記録など、情報共有に必要なスキル向上

【成果と課題】

利用者とは全般的に良い関係性が作られており、見守りなどのリスク管理や基本的スキルも昨年度と比べ向上した。また、主任やグループリーダーを中心に職員間で声を掛け合い、利用者の状況や関わり方を共有する場面も増えた。一方で課題も多く、改善策の提案力とその実行力、一人ひとりの支援計画を日常的に意識して支援に取り組む姿勢は全般的に不十分で、連携協働の姿勢も不足していた。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

1日平均利用者38.2人(45人在籍、出勤率85%)を目標(令和2年度1日平均利用者36.7人)とするほか、常勤換算23.6名以上の生活支援員等を確保することにより、重度障害者支援加算の算定人数を5名から10名に増やす。また、新型コロナウイルスの影響で通所していない利用者に対しては在宅支援を行い、給付費を安定的に確保する。

【成果と課題】

1日平均利用者数は36.2名となり、目標には達しなかった。これは新型コロナウイルス感染症の発生により、8月に9日間事業を休業した影響が大きい。休業期間中は継続的に在宅支援を行ったほか、5月より重度障害者支援加算の算定人数を5名から15名に増やした結果、給付費収入は約1億3,300万円(前年度1億3,250万円)で前年度比約50万円増となった。

(2) 経費削減

使用していない活動場所(特に利用頻度の高い場所)の電気やエアコンの消し忘れをなくし、節電を徹底する。

【成果と課題】

全体的に節電に対する意識は改善されつつあるが、未だ場面によって電気やエアコンの消し忘れはみられており、徹底はできなかった。

(3) 計画的な予算執行

毎月の月次試算分析を正確に行うとともに、必要に応じて補正を行い、年間を通して計画的に予算執行を行う。

【成果と課題】

毎月の月次試算分析に基づき、概ね計画的に予算を執行することができた。緊急的な支出も発生しなかった。

8 その他の成果と課題

1) 社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎実施

他市居住の利用者の送迎を効率化させるために、社会福祉法人六三四と夢の樹みどりの利用者の合同送迎を平成30年2月から継続して実施している。

2) 職員の相互派遣(対象:夢風船)

生活介護事業所間の連携強化及び支援の充実を目的として、夢風船と相互に職員を派遣し合う取り組みを7月末まで実施した。職員2名が各々週1日のペースで実施し、業務改善に役立てることができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により8月以降は中止とした。

9 事故等報告

1) 車両交通事故

令和3年5月 資源回収作業中に、近隣スーパーの駐車場で当方車両後方部と相手方車両側部が接触し、相手方車両ドアの一部が破損した。怪我人はなかった。

令和3年7月 利用者の送迎中に、みらいホームクローバー西側にある個人宅敷地内の三角コーンを車両の前輪で踏み破損させた。先方に謝罪の上、弁償した。

10 開所状況

1) 開所期間	自 令和3年4月1日	至 令和4年3月31日
2) 開所日数	(1) 週開所日数	5日間
	(2) 開所時間	午前9時～午後4時
	(3) 年間延開所日数	230日間(前年度 243日)
	(4) 平均活動時間	7時間

11 利用状況

1) 利用者延人員	8,355人(前年度 8,850人)
2) 1日平均利用人員	36.2人(前年度 36.6人)
3) 体験実習者延人員	0人(前年度 0人)

- 4) 1日平均実習人員 0人(前年度 0人)
5) 実習者実人員 0人(前年度 0人)

1.2 利用者状況(令和4年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	3名
20歳以上30歳未満	25名
30歳以上40歳未満	9名
40歳以上50歳未満	6名
50歳以上60歳未満	0名
60歳以上70歳未満	2名
70歳以上	0名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	2名(内身障手帳所持2名)
愛の手帳2度	38名(内身障手帳所持3名)
愛の手帳3度	2名
愛の手帳4度	2名(内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名)
身体障害者手帳1級	7名(内愛の手帳所持6名)
精神保健福祉手帳2級	1名(内愛の手帳所持1名)

障害支援区分

平均障害支援区分 5.1

3) 通所手段

送迎車利用	45名(内1名家族送迎、内1名交通機関利用と併用)
家族送迎	1名(送迎車利用と併用)
交通機関利用	1名(送迎車利用と併用)

4) 居住状況

管内居住 34名 管外居住 11名

5) 性別

男性 36名 女性 9名

1.3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 4,379円(前年度 4,054円)
日給 : 252円(前年度 221円)

1.4 夕方生活支援実施状況

1) 実施日数 123日(前年度 145日)

2) 利用者(令和4年3月31日現在)

(1) 利用者数	27人(前年度 28名)
(2) 利用者延人数	673人(前年度 743名)

3) 支援者(令和4年3月31日現在)

(1) 職員	44人
--------	-----

	(2) 職員延人数	548人
4) 内容	(1) ボウリング	11回
	(2) 散歩	11回
	(3) 料理	11回
	(4) 室内遊び	29回
	(5) パソコン	19回
	(6) ドライブ	24回
	(7) 初詣	2回
	(8) 映画鑑賞	16回

1.5 生活支援PG実施状況

1) 実施日数	(1) PG実施日数	220日 (前年度 207日)
	(2) 週平均実施日数	4.2日 (前年度 4.5日)
2) 利用者 (令和4年3月31日現在)	(1) 利用者数	12人 (前年度 12名)
	(2) 利用者延人数	852人 (前年度 866名)
3) 支援者 (令和4年3月31日現在)	(1) 職員	27人
	(2) アルバイト	5人
	(3) 職員延人数	709人
	(4) アルバイト延人数	203人
4) 内容	(1) ウォーキング	852回
	(2) プール	0回

1.6 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1.7 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に参加を予定していた当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練については、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小した形での実施となり、今年度は不参加となった。